

〔この一言〕

渾沌 橋本吉太郎 2

〔提言〕

これからの時代の学びへの転換 松山清美 4

〈特集〉

第60回政令指定都市中学校国語教育研究協議会名古屋大会

〔大会を総括して〕

第60回政令指定都市中学校国語教育研究協議会名古屋大会を終えて
..... 松岡篤司 8

〔第60回政令指定都市中学校国語教育研究協議会オンライン公開授業の実際〕

「少年の日の思い出」授業構想（中1）..... 水迫宏明 12
～そうか、そうか、つまり君はそんなやつなんだな。～

〔実践を語る〕

1 話すこと・聞くこと部会

相手の話に関心をもち、相手の発言を受けてつなぐことができる児童の育成（小1）
..... 岡田拓未 20

2 書くこと部会

学習内容の活用を促し、書く力を高める振り返りの実践（小3）
..... 長山大介 26

3 小学校読むこと部会

文学的文章の学習における主体的に学習に取り組む態度の評価
..... 山田博史 32

4 言語部会

場に応じた言葉を豊かな語彙で表現する実践（中3・小2）
..... 川村朋也 38
大久保友貴

5 書写部会

身近な文字を探し、文字の表現効果を考える書写学習（中1）
..... 竹内理恵 42

〔この一冊〕 杉浦加代子・舟橋宏紀 46

〔全国大会見てある記〕 加藤由恵 48

〔教室Q & A〕 49

〔編集後記〕 52

名古屋国語教育研究会のあゆみ 58

（題字 河合良昌）

渾 沌

橋 本 吉太郎

(名古屋市立猪子石中学校)

本年度の十一月十九日に第六十回政令指定都市
中学校国語教育研究協議会名古屋大会を開催しま
した。このような全国的な大会を円滑にできまし
たのは、ご尽力いただきました先生方と皆さん
が支える名国研の組織力のおかげであり、本紙面
においても心より感謝と敬意を表します。

さて、名国研は研究活動の重要なテーマとして
「ことばの力」を位置付けています。人は言葉で、
何かを示し、区別し、意味付け、伝達します。こ
の「言葉」の別の働きについて述べたいと思います。
まず荘子の「渾沌(こんとん)」を用いて考えます。

中央の帝王の渾沌は南海の帝王の儵(しやう)と北海
の帝王の忽(こつ)を大変厚くもてなした。儵と忽は
渾沌の恩義に報いようと相談した。「人は皆
七つの穴(目二つ、鼻二つ、耳二つ、口二つ)
があり、これらで見て、聞いて、食べ、呼吸
をしている。しかし、渾沌には七つの穴がな
い。そこで、穴を開けてあげよう。」一日に
一つ穴を開けた七日目、渾沌は死んだ。

無秩序な自然(混沌)に人の七つの穴(秩序)
を加えたことで本来の自然がなくなることを読
いたものと言われています。無為自然が良く、人為
的な行いを否定しています。渾沌が死んだ原因の

穴は「目、鼻、耳、口」の言葉に言い換えられ、
その言葉で秩序がもたらされ、混沌は滅します。

人間世界が無秩序で混沌なら不幸な世界です。
歴史を見れば秩序は人を守り、秩序は言葉によ
って成立すると考えます。法律、福祉、人権などの
言葉は現代社会の基盤の言葉だと思っています。

次は「虹色」です。虹色は何色あるか、日本で
は「赤、橙、黄、緑、青、藍、紫」の七色ですが、
虹色は国や民族によって異なります。

- 八色 アフリカのアル部族
- 七色 イタリア、オランダ、韓国、日本
- 六色 アメリカ、イギリス
- 五色 中国、ドイツ、フランス、メキシコ
- 四色 インドネシア、ロシア

八色では黄緑色が加わり、六色では藍色、五色
では藍色と紫色が減ります。さて、加減された色
はどうなっているのでしょうか。実際の虹ではそれ
らの色は確認できます。アメリカはかつての七色
を六色に修正したそうです。虹色が何色あるかは、
国や民族でのきまりごとのようです。実際の虹色
は光の波長のグラデーションです。虹色は何色か、
それは言葉で表現された色の数となるようです。

谷川俊太郎の詩「春に」の一節、

言葉であったことを考えると皮肉です。

この「呪文」のように口から発せられた言葉で
人が縛られることを学校で見ることがあります。

私は人間関係で悩んでいる子どもの話を聞き、
「仲良くできない」、「○○さんと一緒に嫌だ」な
どのつぶやきがあると、「なかよし」と「協力」
は違うことを伝えます。すると、子どもは憑き物
がなくなったように心を軽くします。

学校では「仲良くしよう」と言われがちと思
いますが、子どもの中には仲良くできないことで悩
み苦しむ子どもがいます。「なかよし」という言
葉に縛られています。大人でも子どもでも人から
言われた言葉が気になります。励ましであれば
「呪文」、心ない言葉なら「呪い」となります。

言葉は、便利で大切なものです。しかし、言葉
には、ものを見えなくしたり、人の思考を縛った
りする働きがあります。

したがって、授業中の教師の言葉には、子ども
の作品から読んで味わっていたものが消えたり、
子どもが教師の求める答えに合わせて考えたりす
る可能性があると思います。

授業で子どもの言葉を大切にすることに、これら
の言葉の働きには注意したいものです。



「声にならないさけびとなってこみあげる」
「よろこびだ しかしかなしみでもある」
「いらだちだ しかしやすらぎがある」
「大声でだれかを呼びたい」
そのくせひとりだまっていたい」
に続く「この気持ちはなんだろう」を感情表現に
置き換えると、「渾沌」のように「この気持ち」
は消え、「虹色」のように表現されない気持ちは
あつたはずなのになくなってしまおうでしょう。
ここまで述べたように指示、区別、意味付け、
伝える言葉であつたものがなくなり、見えていた
ものが見えなくなることがあるようです。
「祝」と「呪」の文字は、「祝い」と「呪い」で
全く異なることを表しています。しかし、この二
文字は、祭壇で祈りを捧げる人「兄」から祭壇で
幸せを祈る様子「祝」、口から発する祝詞を表す
「呪」であり、二文字の成立背景は同じです。「呪」
を「呪文」や「お呪い」と見直すと「祝詞」の「祝」
との共通性が分かると思います。
なぜ「祝」が「呪い」と恐ろしい意味で使われ
るようになったのでしょうか。「呪文」「お呪い」に
は人を縛り操るという意味があつたからと言われ
ています。「祝」と「呪」も願いを叶える祈りの